員數

彼末葉、此靈劍之圖、今所獻殿下也、彼中將圖與泰長圖、皆以相叶、是爲指南也、

〔官史記〕安貞二年正月廿四日、今日入夜、於殿上有群議事、略○中各被定申、先大刀契事、略○中所謂神功皇后御宇、百濟國之所獻也、一、日月護身劍、疾病邪氣置之、皆悉愈云々、一、三公戰鬪劍、凶賊敵兵帶之自伏云々、號將軍劍、二柄、其四神符文、誠以嚴重也、

〔園太曆〕文和四年十二月三日、略○中大炊頭兼大外記中原朝臣師忠傳、右大臣宣、奉勅大刀契者、累代之秘寶一難朝○難恐誤之靈器也、而遭元弘建武之騷亂、及紛失、因緣之重事、天災難金禮、舊儀不可廢、何樣可有沙汰候哉、可令記傳明經明法博士等勘申者、

曆應元年九月三日

〔永和大嘗會記〕永和元年十月廿八日、天皇鳴河に幸して、大嘗會の神齋のため祓したまふ、略○中大刀はいにしへの寶劍なり、節刀大刀みな百濟より奉れるつるぎどもなり、日月護身の劍、破敵將軍の劍などいふものありき、これもみな或は度々の炎上にやけ、或は紛失侍るにや、返々無念の事なり、契は魚のかたちに似て、諸司の契符なり、これも今は其名ばかりなり、

〔世俗淺深秘抄下〕宜陽殿御劍事

一被置宜陽殿御劍數柄之中、破敵劍、守護劍、以此兩劍爲朝寶、

○按ズルニ、宜陽殿御劍ト稱スル者ハ、即大刀ナリ、

〔桃華蘂葉〕節刀事、

節刀者雜劍也、其中璽劍有二柄、是即百濟所貢進、日月護身劍、破敵將軍劍等也、納幸櫃一合、行幸之時、相副賢所被奉遷也、靈劍雜劍、合卅四柄之由見天德記、

○按ズルニ、日本紀略、中右記等ニハ、大刀卅四柄トアリ、此條ノ卅四柄ハ、恐ラクハ卅四柄ノ誤ナラン、